

神奈川県立小田原東高等学校 令和7年度 第3回学校運営協議会 記録

開催日時 令和8年3月6日（金）15：00～16：50

開催場所 小田原東高等学校 会議室

議事録

1 開会挨拶

2 校長挨拶

- ・本日の出席と日頃の支援に感謝します
- ・3月2日の卒業式へのご列席、ありがとうございました
- ・入学者選抜は現状定員を大幅に割れていて、二次募集の準備中である
- ・アドバンスクラスは生徒数の減少に伴い学級の形は難しいため、令和8年度以降は学習集団の形をとりながら行う
- ・本日は忌憚のないご意見をお願いしたい

3 報告事項

令和7年度学校評価（実施結果）について（各グループより）

① 運営グループ

- ・火災想定避難訓練は生徒に事前に時間を伝えず実施したが、スムーズに集合できた
- ・DIG講座では学びが得られ、継続して実施する予定
- ・オフィス改善により職員室の収納が増え、声も通りやすくなった

② 学習グループ

- ・教育課程の見直しにより、理科の充実と自由選択の時間数の増加を図る
- ・DXハイスクールについては、各科目で対応できる単元に入れ込み展開したい
- ・生徒による授業評価の結果から、グループワークや発表活動の機会の増加を図りたい

③ 進路グループ

- ・進路実績の最新データの報告
- ・卒業後の進路がアルバイト、という生徒が確実に増加している
- ・大学進学は、総合型選抜等で早めに動き出すと良い結果を得られた

④ 生活グループ

- ・5月に職員対象の生徒情報共有会を実施した
- ・6月と11月に生徒対象のサポートブックを実施し、学年ごとにスクリーニング会議や面談を行った
- ・アウトリーチ相談支援事業では、認定NPO法人の「ME-net」や「エンパワメントかながわ」と連携した

⑤ 特別活動グループ

- ・将棋部が全国大会に出場した 少人数で活躍している部についても支援したい
- ・生徒会役員が新役員体制となった 決選投票もあり、活気のある選挙だった
- ・文化祭では、生徒の発案によりナチュラルメイクを実施した 今後も生徒と職員が連携し、要望を実現できるようにサポートする

⑥ 連携グループ

- ・学校説明会では多くの生徒がスタッフとして参加し、日ごろの姿から本校の印象が伝わった また、生徒インタビューやスピーチのコーナーは高い満足度を得られた
- ・さがみ信金創立 100 周年記念事業イベントにボランティアスタッフ 13 名が参加し 企業・自治体と協力して実施することができた
- ・SNS を活用した情報発信をしていきたい

⑦ 専門学科商業

- ・全商検定 1 級合格者について、6 種目 1 名、5 種目 1 名は日頃の学習の成果であった
- ・酒粕利用の視点からの商品開発や小田原おでんが好評であり、来年度も取り組みを継続したい

⑧ 高校生ショップ城湯屋

- ・産業教育フェアでは、マーケティングで学んだことを生かした販売実習を行い、アルバイトとは違う感想を得ることができた
- ・さがみ信金創立 100 周年記念事業イベントは学校外での実習であり、大きな成果を得られた

4 DXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）県外視察報告

5 オフィスカジュアルデー報告（イーストプロジェクト魅力づくりWG）

6 質疑応答および意見徴収

- ・総合ビジネス科の魅力発信をどのようにするかが課題
- ・11月に小田原市一斉総合防災訓練を実施予定、東高生にも参加してほしい
- ・イーストプロジェクトでは、アロハフライデーのような具体例が必要ではないか
- ・検定や資格をとり、自分をPRしてほしい
- ・就職の強みをいかして新しい商業高校をめざしてほしい
- ・就職に生かせるデジタル人材をつくってほしい
- ・最低賃金が上昇し、正社員でなくても生活が成り立つため、若い人は短い時間で効率よい自由度の高い働き方を選ぶ
- ・卒業後の進路がアルバイト、という生徒は志望理由を考えることを面倒がり、1年後のイメージをすることができない

- ・卒業式に参列しました 生徒全員立派な姿であった
- ・授業参観でもどの生徒も落ち着いており、手厚い指導を感じる
- ・小田原東高校にもっと生徒が集まってほしいが、湘南地区志向が強い ホームページ以外の魅力発信の必要性を感じる
- ・DXハイスクールはアピールポイントになるが、機材でなにができるかをわかるように伝える必要がある
- ・普通科でも検定が受けられる、というメリットはアピールポイントになる
- ・ビジネスマナー教育をぜひ進めてほしいが、基準を押し付けることはやめてほしい
- ・DXハイスクールのコアとなるのはカリキュラムであり、DXならではのカリキュラムを検討してほしい 科目レベルでの構成を考える必要がある
- ・生徒は地道によくやっている、続けて頑張ってもらいたい
- ・他校との差別化に向けて、グループリーダーはいつもその意識をもってほしい
- ・イーストプロジェクトの発信はホームページでは限界がある、おもしろいことをやっているという、生徒自身の発信がよい宣伝になるのではないか
- ・生徒数減少により部活加入率が減るのは仕方がない、評価は別の指標とするべき
- ・白鷗中との連携は部活だけでなく、授業を参観し合っている 今後もぜひ続けてほしい
- ・ほとんどの3年生が在学中に成人を迎えるが、衆議院選挙の投票率はどうだったか？
(回答) 具体的な投票率は不明である 参議院選挙は事前に模擬投票等で指導するが、衆議院選挙は時間的に難しかった

7 令和8年度に向けて

- ・本日の質疑応答でいただいたご意見をもとに、報告書の作成と令和8年度の目標設定を行いたい

8 閉会の挨拶